



## 「ひっつき虫」たち

▼晩秋、熟した実の「ひっつき虫」に、道ばたや野山を歩いていると気付かぬ間にくっつかれ捉えられている。くっつかれた側は厄介者と思うが、地面に根を張って動くことができない側は、子孫を増やすための必死の戦略。▼種子散布には風や水で運ばれたり、動物に食べられたり、弾けたり、様々な方法がある。どれも、練りに練られた命をつなぐための緻密な使命を秘める。どんなに小さな「タネ」でも大きなエネルギーを持った命の完成体であり、それを思うに付け、自然への敬意を払わずにはいられない。▼今年もひと月を残すのみ。コロナの終息はもちろん、戦争、飢餓、災害等々多くの災いから平和を取り戻し、すべての命を受け継ぐことができますように。

～2022年11月湯来町にて～